

平成24年度 第4回 大学運営連絡会議事要旨

日 時 平成24年7月10日（火） 10時30分～11時15分

場 所 大会議室

出席者 学長，瀬口理事，中島理事，岩本理事，宮崎理事，川上監事，福本文化教育学部長，平地経済学部長，濱崎医学部長，林田工学系研究科長，藤田農学部長，稲岡附属図書館長，遠藤教養教育運営機構長，門出海洋エネルギー研究センター長，事務局長

欠席者 なし

陪席者 大島学長補佐

○ 学長から，前回の大学運営連絡会議事要旨の確認依頼があった。

【 検討事項 】

(1) 大学改革実行プランの対応について

学長から，中長期ビジョンの中間検証と大学改革実行プランの対応について，これまでの経緯，その対応，今後のスケジュールについて説明があり，平成25年央までに策定の「国立大学改革プラン」等の対応に全力を挙げて取り組むこととし，そのため，中長期ビジョンの中間検証は，本学の自己点検・評価書を基に，企画・財務・労務室を中心に簡便に実施し，年内を目途にたたき台を取りまとめることとなった。

また，ミッションの再定義における基礎資料について，「過去（設置）」「現在（現状）」「未来（ミッション・将来構想）」を踏まえた内容とすることや定量的・定性的データに基づいた記載とすること，併せて，再定義検討組織の名簿を提出すること等を早急に各学部・研究科に依頼する。さらに，それらの資料を基に，7月27日に神集島合宿研修所で役員勉強会を実施し，8月1日・2日に学長と学部長等との意見交換を実施する予定である旨の説明があった。

次いで，経済学部長から，現在検討中である経済学部の改組については，大学改革実行プランを見据えた上で，ミッションを踏まえた再検討を行ったこと，経済学部の設置の経緯や使命等の説明があり，学長から，文系学部の改組は全国的に厳しいものであるが，本学経済学部はその先陣を切る取組であり，期待を持たれているとの発言があった。

(2) その他

・全学教育機構における教育について

学長から、本件について、拡大役員懇談会の意見交換のテーマ「全学教育機構における教育について」の結果を踏まえて、本学学生の英語力向上を図るため、TOEICテスト実施等の取組みについて、今後、教育研究評議会でも意見を聞き、全学教育機構等で検討していくことの説明があった。

【 報告・連絡事項 】

(1) 平成24年度評価反映特別経費に係るIRデータに基づく業務の評価の評価項目等について

学長から、本件について、平成24年度評価反映特別経費に係るIRデータに基づく業務の評価の評価項目(たたき台)と現時点で想定される「大学ポートレート(仮称)」の内容等について説明があった。さらに、以前から、IRデータに基づいた課題発見と問題解決をやるべきであるとの考えを持っており、一方で、悪いデータが出ることで大学のマイナスイメージについても充分認識しておくべきであるとの発言があった。さらに、研究業績データベースへの入力について、「入力しないこと」が「やっていないこと」との評価になるので、教員各位には、十分留意のうえ、入力率の向上について協力してほしい旨の発言があった。

(2) 平成24年度第4回及び第5回拡大役員懇談会における議論の概要について

学長から、本件について、6月6日及び6月20日に開催された拡大役員懇談会の議論の内容について、その概要の報告があった。

(3) 神集島合宿研修所の改修について

瀬口理事から、本件について、この度、神集島合宿研修所改修工事が終了し、完成披露式等を平成24年7月27日に開催する旨の報告があり、併せて、今後、ゼミや授業、課外活動、レクリエーション等での積極的な活用について依頼があった。

(4) 佐賀大学と高等学校との意見交換会について

学長から、本件について、本学と高等学校との意見交換会を6月から始めており、同窓会長や各学部長等とともに、7月上旬までに佐賀県内14校と意見交換を行ったこと、また、各高校からは多岐にわたる貴重な意見をいた

だいたこと、大学からの情報発信として大学案内の評判がよかったこと等の報告があった。また、九州外から本学へ入学する学生が減っていることやグローバルな人材を育成する要望が多いことなどを踏まえ、今後、高大連携活動の新しい展開に向けて、鋭意取り組んでいきたいとの発言があった。

(5) 認知症サポーター養成講座の実施状況等について

研究協力課長から、本件について、平成23年度に学内7回、学外2回の計9回を実施したが、本年度は、各学部での実施を開始しており、特に教員の受講について依頼があった。また、佐賀県庁や各自治体等の学外機関でも実施されており、都道府県別キャラバン・メイト数などでみた全国的順位が22位から7位へ上昇していること等の報告があった。

学長から、認知症について、基本的な知識を持った人が増えるということが本養成講座の成果であり、最終的な目標は、「この街に住んでよかった」という思いであること、今後も6者事業として、大学全体で取り組んでいきたいので協力いただき旨の依頼があった。

(6) 国際戦略構想による国際化支援について

中島理事から、本件について、今般の大学の国際化、グローバル人材育成等の社会情勢に鑑み、佐賀大学独自の国際戦略構想による国際化支援の取組みの一環として、研究者の交流支援及び学生の海外語学研修を目的とした支援などを行うものである旨の説明があった。

次いで、国際課長から、これらの支援事業は、国際交流推進センター運営委員会において了承されたもので、学生向けの支援については、平成23年度の実績の約2倍の計画となっていること、6月29日に全教職員に通知したところであり、学生の応募等について、各部局の先生方へ協力をお願いしたいこと、採択結果については、取りまとめ次第報告する旨の発言があった。

また、構成員から、募集要項に表記されている「日本人学生」という表現について、適切な表現に変更するよう検討してほしい旨の依頼があった。

(7) その他

学長から、今後の会議は、可能な限りペーパーレスで行いたいので、ご協力いただきたい旨の依頼があった。

【 その他 】

特になし

以 上